

「社会とつながらないと人間は生きていけない」

14S2050 八田 冷子 保健師 青山キャンパス

こんなにはっきりと利用者の立場で、直接ご意見を聞いたのは初めてでした。

奥さんの言葉は、ひとつひとつ心に重く響くものでした。特に介護保険のデイサービスは「介護家族のためのデイ」「地域包括支援センターに相談してもなんにもならない」「介護家族の会にめぐり逢うのに1年もかかった」「情報が無い」「ケアマネも千差万別、ケアプランは誰でも作れる。」「社会とつながらないと生きていけない」のに「デイサービスは〇時間～〇時間本人をまるで商品として傷つけないように隔離している」等等。

でも「DAYS BLG」で前田先生と出会い、「もう一度人間性を取り戻し社会とつながり生き返った」奥さんに心から拍手したいと思いました。そしてそのような「DAYS BLG」を立ち上げられ、奥さんの声を私たちに届けてくださった前田先生に感謝します。

よくよく考えてみると、環境は違いますが鹿児島にも「DAYS BLG」のような取組をしているデイサービスがあります。鹿児島の「スマイルサポート」の松元さんは自分の出身地、肝付町でデイサービス「幸芽（ゆめ）」を開設し、北海道のような広い田畑を活かして年間50種類以上の農作物を利用者さんたちと作り、収穫した農作物で食事を作り近隣の人も気軽に立ち寄ってお茶を飲んでいくようなデイサービスを展開されています。奥さんが言われる「チーチーパッパ」ではなく、今日何をするかなど悩むことなく（温暖な鹿児島では、年間50種類も農作物を作るとなると農閑期なんてないそうです）日々の農家の営みそのままデイサービスであり、その中で利用者の方々は、男性も女性も皆それぞれに得意の作業をし、汗を一緒にかき、人口減でほっとくとあつという間に荒地になる田畑を守っているとのことでした。

住み慣れた環境で近隣の住民とつながりながら、デイサービスの活動が地域の田畑を守るといって社会貢献活動になっているようです。認知症で時には家族にも怒り感情をむき出しにされる男性の利用者もしっかりと役割を持ち、生き活きとした表情がとても印象に残っています。「DAYS BLG」や「幸芽（ゆめ）」のようなデイサービスが増えてほしいと思います。

そしてもう一つ、奥さんが言われた、認知症という「病を得た」「責任は当事者にある」という言葉がとても印象に残っています。一端、「地獄」を見て、そこから這い上がり今の境地にまで到達された奥さんの魂の言葉だと感じました。以前、社会学者の鶴見和子さんが言われた「回生」という言葉を思い出しました。奥さんは、今「病を得」新たな人生を歩き始めておられると感じました。これからもお元気で奥様と一緒にステキな日々を過ごしていかれるよう鹿児島から祈っています。

前田先生、奥さん貴重な講義、本当にありがとうございました。